

神戸大学の建築卒業展2013「documentary」が19日から21日までの3日間、神戸市中央区の兵庫県立美術館で開かれた。20日には卒業作品を対象に、建築家によるゲストレクチャーと講評会

31作品から9作品

特別協賛—総合資格

が行われ、最優秀賞に谷口豪さんの『間隙のアジール—都市における終焉の場』が選ばれた。総合資格学院を運営する総合資格が特別協賛した。

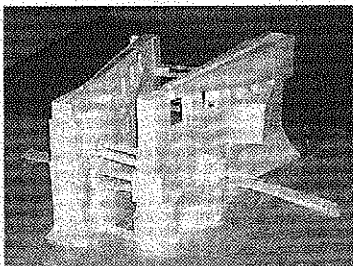
会場の同美術館ギャラリー棟内には、建築学科の卒業設計31作品や構造系卒業論文が一堂に展示され、3日間に多くの来場者が訪れた。

遠藤秀平神戸大大学院教授、槻橋修同准教授がコーディネーターを務め、卒業設計の審査は畑友洋、大西麻貴、多賀謙蔵の建築家3氏が担当した。

31作品から9作品を選抜し、熱気あふれるプレゼンテーションや講評を展開。谷口さんの作品と、徳永悠希さんの『fantasic factory—染色工場との新たな付き合い方』が最後まで競り合い、僅差で谷口さんの作品が最優秀に決まった。徳永さんに畑賞と大西賞の2審査員賞、構造的に評価された楊輝彦さんの『Vormalism』に多賀賞が贈られた。また、総合資格の末吉一博神戸支店長が副賞を手渡した。



最優秀賞を受ける谷口さん(左)



『間隙のアジール』

卒業設計最優秀に藤田さん

大阪市立大学生活科学研究科主催の第10回居住環境デザインフォーラムが19、20日の両日、大阪市住吉区の同大学学術情報総合センターで開かれた。卒業設計では、藤田俊洋さんの作品が最優秀

製図・論文49点展示

特別協賛—総合資格

に選ばれた。総合資格学院を運営する総合資格が特別協賛した。

このデザインフォーラムは、4年間の教育プログラムの全体像を提示し、課題に取り組むうえでの目的意識を明確にする学習成果の発表の場として2004年度から開催されている。

今回は大学1—4年生、大学院修士の設計製図課題・論文49点が展示、発表されたほか、建築家・内藤廣氏の記念講演「住むことと暮らすこと」や、内藤氏と竹原義二大阪市大元教授との特別対談も行われた。内藤氏は、東日本大震災を振り返りながら、住むことと暮らすことの違いを指摘し、これからの建築のあり方などを講演した。

20日には来場者投票により、卒業設計部門では、藤田俊洋さんの『登りつなぐマチ—斜面地における駅周辺の新たなカタチ』が最優秀に選ばれた。特別賞の内藤廣賞は、3年生の白石美奈子さんの作品『朝食に集う家』に贈られた。表彰式で各賞の授与や、総合資格の井藤純一なんば支店長から副賞が手渡された。



表彰状を受ける藤田さん(右)



『登りつなぐマチ』